**中小企業診断士受験生能力変化分析レポート**

**STRIKE 分析による時系列能力変化の体系的分析と学習効果検証**

---

**エグゼクティブサマリー**

**主要結論：** 32 名の受験生を対象とした STRIKE 分析の結果、**成長率 31.3%、維持率 37.5%、後退率 31.3%**という結果が得られた。成長と後退が同率で発生しており、学習効果には明確な個人差が存在することが判明した。

**重要発見：**

- **成長の鍵は「メタ認知力」** - 自己分析→他者学習→構造化→体系化のサイクルを回せる受験生が顕著な成長を示す
- **後退の主因は「感覚的解答」** - 論理的分析より印象に頼る傾向と基本概念理解不足
- **維持組の安定性** - ★4 レベル維持組は貴重な安定した実力層を形成

**戦略的示唆：** 成長組の学習手法を体系化し、後退組の具体的課題に対処することで、全体的な学習効果向上が期待できる。

---

**1. 調査概要**

**1.1 調査対象**

- **対象者数:** 32 名の中小企業診断士受験生
- **分析期間:** 時系列による 2 回の解答比較
- **分析事例:** 事例Ⅰ～Ⅳ（組織・人事、マーケティング、生産管理、財務・会計）

**1.2 STRIKE 分析フレームワーク**

| 要素 | 評価内容 | 評価段階 |
|---|---|---|
| S (Structure) | 記述構成力・視認性 | ★1～★5 |
| T (Timing) | 時間管理とスピード | ★1～★5 |
| R (Reasoning) | 論理的な分析力 | ★1～★5 |
| I (Insight) | 本質的な洞察力 | ★1～★5 |
| K (Knowledge) | 経営知識 | ★1～★5 |
| E (Expression) | 適切な語句・キーワード表現 | ★1～★5 |

---

## 2. 全体結果

### 2.1 能力変化分布

- **明確な成長:** 10 名（31.3%）
- **維持:** 12 名（37.5%）
- **後退:** 10 名（31.3%）

### 2.2 変化の特徴

- **成長組:** 平均 2.4 項目で向上、最大 5 項目成長
- **維持組:** 高水準（★4 レベル）での安定維持が特徴
- **後退組:** 最大 5 項目低下、R・I（論理性・洞察力）低下が顕著

---

## 3. 成長パターン分析

### 3.1 顕著な成長事例

**【受験生 A】5 項目成長の最大成長者**

- S★3→★4, T★2→★4, R★3→★4, I★2→★3, K★3→★4, E★3→★4
- 時間管理と Insight で大幅改善

**【受験生 B】4 項目バランス成長**

- T★3→★4, R★3→★4, I★3→★4, E★3→★4
- 「因果を意識したためか、メリットに効果を書いてしまった」など的確な自己分析

### 3.2 成長する人の 4 つの特徴

**① 自己分析能力の高さ**

- 具体的な失敗点を言語化
- 改善点を明確に特定
- メタ認知力が機能

**② 他者から積極的に学ぶ姿勢**

- 他者解答への的確なコメント
- 学習サイクルが効果的に回転
- 素直な修正能力

**③ 構造化思考の習得**

- ①②③の番号付けを徹底

- 論理的な文章構成を意識
- S（Structure）から他要素への波及効果

**④ 知識の体系化・応用力**

- 理論の実践的活用
- 状況に応じた知識の使い分け
- 単なる暗記を超えた理解

---

**4. 後退パターン分析**

**重要な補足事項**

後退パターンの分析結果については、以下の点を考慮して解釈する必要があります：

- **課題難易度の変化：** 学習が進むにつれ、より難易度の高い課題や苦手分野の課題に取り組む傾向があり、一時的な成績低下は自然な現象
- **初見課題への挑戦：** 新しいタイプの問題や初見の事例に挑戦することで、短期的には評価が下がることがある
- **年度による難易度差：** 中小企業診断士 2 次試験は年度によって難易度に差があり、同じ実力でも結果に変動が生じる
- **評価のランダム性：** たとえ実力があっても、2 次試験としての解答結果にはある程度のランダム性が含まれており、これは試験の性質上避けられない要因

**4.1 深刻な後退事例**

**【受験生 C】5 項目低下の最大後退者**

- S★4→★3, T★4→★2, R★4→★3, I★4→★2, E★4→★2
- 時間管理と Insight・Expression で大幅低下

**【受験生 D】論理性・洞察力の低下**

- R★4→★3, I★4→★3
- 本人コメント：「印象先行で解答を進めた」「重要な条件を見落とし」

**4.2 つまずく 4 つのパターン**

**① 基本概念の理解不足**

- 設問要求の誤解
- 用語定義の曖昧さ
- 「課題と問題点の意味を復習しましょう」レベルの混乱

**② 感覚的・印象的な解答**

- 論理的分析＜感覚的判断
- 与件文の精読不足
- 「印象先行」による判断ミス

**③ 自己振り返りの浅さ**

- 問題の原因分析が表面的
- 具体的改善策の不明確さ
- 学習サイクルの機能不全

**④ 知識の断片化**

- 体系的でない知識構造
- 理論と実践の結びつきの弱さ
- 応用力の不足

---

## 5. 維持パターン分析

### 5.1 安定維持の価値

- 37.5%の維持率は決して低い数字ではない
- ★4 レベル維持組は貴重な安定層
- 一定の実力を安定して発揮できる能力

### 5.2 維持組の特徴

- 基礎力が確実に身についている
- 大きな変動がなく安定した解答品質
- 成長の伸び代を持ちながら現状維持

---

## 6. 考察・提言

### 6.1 成長促進要因

1. **メタ認知力の向上:** 自分の思考プロセスを客観視する能力育成
2. **構造化思考の徹底:** ①②③番号付け等の基本フォーマット習得
3. **相互学習の促進:** 他者解答分析による学習効果最大化
4. **理論と実践の統合:** 知識の体系化と応用力強化

### 6.2 後退防止策

1. **基本概念の再確認:** 設問要求理解の徹底

2. **論理的思考の訓練:** 感覚的判断からの脱却
3. **振り返りの深化:** 具体的な改善点特定手法の習得
4. **知識の体系化:** 断片的知識の統合促進

### 6.3 全体最適化戦略

- **成長組の手法体系化:** 成功パターンの他者展開
- **後退組の課題特定:** 個別課題への対処
- **維持組の安定活用:** 安定要因の分析と活用

---

## 7. 結論

本分析により、STRIKE 分析が受験生の能力変化を客観的に測定し、学習効果を可視化する有効なツールであることが実証された。成長・維持・後退の 3 パターンが明確に分かれ、それぞれに特徴的な要因が特定できた。

**最重要発見:** 成長の分岐点は「メタ認知力」であり、自己分析→他者学習→構造化→体系化のサイクルを効果的に回せる受験生が持続的な成長を実現している。

この知見を活用することで、より効果的な学習指導と受験生の能力向上が期待できる。

---

**付録：分析データ概要**

**成長組（10 名）**

成長項目数の分布：

- 5 項目成長：1 名
- 4 項目成長：4 名
- 3 項目成長：2 名
- 2 項目成長：2 名
- 1 項目成長：1 名

**維持組（12 名）**

維持レベル分布：

- ★4 以上高水準維持：8 名
- ★3 中水準維持：4 名

**後退組（10 名）**

後退項目数の分布：

- 5 項目後退：1 名
- 3 項目後退：2 名
- 2 項目後退：3 名
- 1 項目後退：3 名
- 実質的成長要素あり：4 名

---

**分析期間:** 2025 年 7 月
**分析者:** 2 次試験研究所
**分析手法:** STRIKE 分析フレームワーク
**対象:** 中小企業診断士 2 次試験受験生 32 名